

シンポジウム

地中海地域の碑文文化 碑文はどこまで歴史を語れるか？

はじめに

小林雅夫

古代ギリシア・ローマ世界については、地中海周辺地域全域にわたって豊富な遺跡が残っており、考古学的研究も長い伝統があります。さらに豊富なギリシア語・ラテン語文献があり、しかも水準の高いものが多いことはよく知られているとおりです。そして、すぐれた科学文献や哲学書や美術作品についての研究はヨーロッパの知的伝統を理解するのに不可欠であります。さらに古代地中海世界が残した遺産のうち、歴史学の他の研究分野に比べて圧倒的に重要なのは質・量ともに充実している法学文献の存在でしょう。ローマ法学は、きわめて難解な研究分野ですが、重要な史料を残しています。

古代地中海は石の文明ですから、破損はしても、腐敗消滅することのない碑文を数多く残しています。もちろん碑文そのものが特定の目的の下に刻まれているので、その碑文の製作目的の把握そのものが困難な作業です。しかも、碑文学自体独立した学問分野ですので、ギリシア碑文であれラテン碑文であれ、この歴史学の隣接学問の学習は、歴史学研究者にとって苦しい壁でもあります。

とりわけローマ人は、凱旋門をはじめ多くの記念物に多数の碑文を残しています。彼らは制作した碑文は永遠に公開されるものであると考えていました。古代人の時間観念は近代人とは大きく異なります。また、彼らの自己表現はやはり独特なものがあります。たとえば極端な例ですが、ローマの軍医の墓碑にしても、墓碑の性格を考えますと、墓碑を通じて死者の生前の功績を誇らしげに表現する意識は、かなり目立っているように思えます。しかし、墓碑に刻まれた文章に見る限り、他の文明圏に比べて文学上の「自伝」意識に微妙な相違があるのではないのでしょうか。つまり、日本人の知識によれば、日本人の意識は、アウグスティヌスの『告白』や近代のルソーに見られるような自己告白の表現とはやや違うのではないのでしょうか。

そして、西欧の「告白」の伝統の起源は、古代ギリシアに出発したように私には思えます。このことは、20世紀の古代史学界で最も影響力のあった古代史家の一人である、イタリアの歴史家モミリアーノも指摘していることです。その理由を明確には立証できませんが、古代地中海世界の墓碑は、まさに西欧人の自己表現の伝統の起源を示しているように私には思えます。

最後に忘れてはいけないのは、古代ギリシア・ローマ世界はロゴス文明の世界であるということです。西欧文化史上最も熾烈な戦い、つまり学問の王座をめぐる「哲学と修辞学」の戦いはプラトンとイソクラテスの間に出発しましたが、この戦いはその後の歴史が示しているように修辞学の支配が進みました。しばしば「哲学の復権」が声高く主張されていますが、このことは、近代の「ヒューマニズムの危機」にも及んでいます。我々は「ロゴス文明」の意義を忘れてはならないでしょう。